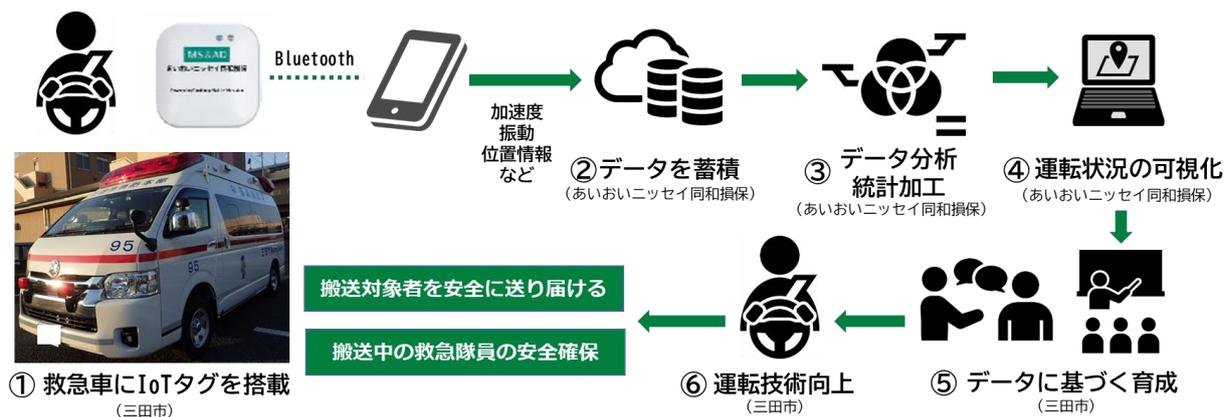


## 救急車の安全運転向上に向けた実証実験を開始

### テレマティクスデータの活用で“市民”の生命を守り“救急隊員”の安全を確保へ

三田市は、さんだ里山スマートシティの取り組みとして、デジタルの活用により「安心の消防・救急搬送体制を整備すること」を目指しています。

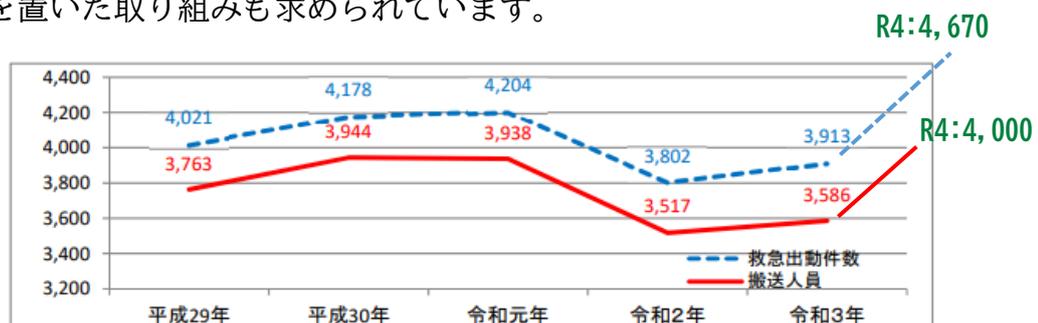
このたび、IoT タグや GPS 等を使い収集するテレマティクスデータ（自動車走行データ）を活用し、救急車などの緊急車両の安全運転向上に資する実証実験を開始することになりました。本実証実験は、令和 4 年 7 月にデータ利活用型スマートシティ推進に関する連携協定を締結した、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（住所：東京都渋谷区恵比寿、代表取締役社長：新納 啓介、以下「あいおいニッセイ同和損保」という。）と連携し、実施します。



-テレマティクスデータを活用した取り組みイメージ-

## 1 背景・課題

本市の救急出動件数は、令和元年度にかけて増加したのち、コロナ禍において一時的に減少したものの、ポストコロナへの移行や今後の急速に進む高齢化の影響等により、再び救急出動件数が増えていく見込みです。また救急業務が高度化しており、救急隊員の人材育成に重点を置いた取り組みも求められています。



-令和 4 年版消防年報より救急出動件数と搬送人員数の推移-

救急隊員は、一刻も早く搬送対象者を医療機関等に搬送することが求められます。中でも救急車を運転する際は、事故を起こさないように安全を確保したうえで「速さ」と「揺らさない」といった高度な運転技術が求められます。救急車が揺れると乗り心地が悪く、搬送対象者や救急隊員に悪影響を及ぼすためです。

搬送対象者に与えるリスク	救急隊員に与えるリスク
・嘔気や嘔吐の誘発 ・血圧・頭蓋内圧の変動 ・疼痛の増悪 他	・転倒等の負傷 ・処置の遅れ、失敗 ・疲労の増加

-乗り心地の悪化によるリスク-

本市消防本部は、これまで独自にドライブレコーダで「揺れ」を数値化し、数値がどの程度になれば乗り心地に影響が出るのか、救急隊員同士で検証を行ってきました。本検証を進める中で、あいおいニッセイ同和損保が有するテレマティクスデータの技術・ノウハウを活用することで、より効果的な取り組みが行えるのではないかと考え、本実証実験に至りました。

## 2 実証実験の概要

本実証実験は、救急車に IoT タグを装着し、タブレット端末を介してテレマティクスデータを収集し、分析などを行い、救急車の走行データが救急隊員の育成に活用できるか検証を行います。一定の加速度で定義した「急減速」を検知した走行データについて、救急隊員にヒアリングを行い、テレマティクスデータの有効性を検証します。また救急隊員の勤怠データやバイタルデータ等との相関検証の実施も予定しています。

【期間】 令和5年7月～令和6年3月

【車両】 救急車5台

## 3 中長期的な展開

本実証実験により、救急車の安全運転向上に資する安全運転マネジメントの在り方を検討していきます。また、あいおいニッセイ同和損保の連携パートナーであり、救急医療支援システムを手掛ける株式会社 Smart119（住所：千葉県千葉市中央区、代表取締役：中田孝明）とも連携し、同社からのサポートも得ながら本取り組みを推進していきます。

今後もデジタルを活用した課題解決に資する新たな取り組みを検討・実施することで、デジタル活用による新たなサービスや価値を創出し、Society5.0の早期実現やスマートシティ推進をさらに加速、拡大させていきます。

### <お問い合わせ先>

- スマートシティ施策全般・あいおいニッセイ同和損保との連携について  
スマートシティ推進課(担当:松本) 直通:559-5096(内線:2346)
- 救急車の安全運転可視化に関する実証実験の進め方について  
消防本部救急課(担当:高見) 直通:564-7305